



邪馬台国はどこですか？

創元推理文庫

邪馬台国はどこですか？

1999年7月9日 第15刷発行

著者 鯨 統一郎

発行所 (株)東京創元社

感想と理由

本書は「歴史エンターテインメント」と作中で表現されている。

歴史を題材に取り上げて、定説を検証する形式の小説だ。

私が本書を読んだのは、学生を終えた後だったので、事なきを得たが、
もしも学生の時分に読んでいたら・・・教科書を信じなかったかもしれない。
既存の史料を基にしながら、定説とは全く違う検証結果が導き出される。

●悟りを開いたのはいつですか？

仏教の開祖である釈迦について。

多くの宗教家と同じように聖人化されている仏陀だが、残された手がかりから浮かび上がる仏陀の姿は・・・

●邪馬台国はどこですか？

日本の歴史書には登場せず、隣国の書のわずか2千字あまりの表記しかない。
江戸時代に九州説と畿内説が有力視されて以来、今日でも決着がつかない。
だが、同じ書物から読み取る方法を変えたら・・・邪馬台国は東北だった！？
表題作に選ばれるだけあり、読みごたえは充分。

●聖徳太子はだれですか？

私はこの作品が一番好きで、何度も繰り返し読んだ。

日本の歴史は、歴史書に書かれたものでしかないのか？と強く感じた。

かつて日本の紙幣の顔とされた、その名の示すとおり聖人のような人物。
だが。

「その日本書紀にね、聖徳太子のことが何ページにもわたって記載されているのよ」

「逆にいうと、聖徳太子に関する資料は日本書紀にしかないわけだ」

—中略—

「どんなに多くの資料があっても、それはすべて『日本書紀』を元にして作られたものなんだ。
あるいは『日本書紀』製作スタッフの意向の下に、と言っても同じだけどね」

P119-124より

「『日本書紀』を作ったのは、いや、名目上は舎人親王かもしれないけど、総指揮を執ったのは
持統天皇と藤原不比等だろ？ 不比等は史（ふひと）を作る職にあったからそう名乗ったのだろ

うし」

—中略—

「思えば、われわれが当時の日本を知る資料として『日本書紀』、つまり勝者の記録しか持っていないということは非常に残念なことだ」

P125-137より

これは頭に響いた。

日本書紀しかり、吾妻鏡しかり、太平記しかり、徳川家の史料しかり・・・
勝者が残した記録のみで、日本の歴史が成立している側面は、否定できない。
真実を探ることは、証明できない故に奥が深い。

●謀叛の動機はなんですか？

本能寺の変について。

織田信長の人間考察に重点を置いているが、歴史と小説が入り混じる過程がおもしろかった。

●維新が起きたのはなぜですか？

明治維新と、首謀者について。

私は歴史が好きなほうだが、明治維新は苦手だった。

理解できないのである。

多くの人間と多くの考えが入り乱れて、結局、わからないのだ。

・・・が、この話を読んで、なにがわからなくて、わからなかったのか、わかったように思った。

●奇蹟はどのようになされたのですか？

キリスト教のイエス＝キリストの復活について。

「じゃあ、あなたは一度死んだ人間が生き返ったなんて本気で信じてるの？」

「いや、そうじゃない。死んだ人間は生き返りはしない」

「どういうこと？ あなた何がしたいのよ」

「なんらかのトリックが行われたということさ」

P264より

死海文書や、「ダヴィンチ・コード」にもある、最後の晩餐も出てくる。

そして、最大のクライマックスと最大の謎。

読みごたえ充分の作品である。

歴史が好きで手に取った本だが、好き以上のものを勉強できた。
日本史についての考え方、史料の読み方、いろいろなことを考えた。
子供が歴史をどう考えるかわからないけど、伝えたいことがある。
いつか、子供に読んでほしい。